

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	多久市立東原庫舎中央校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	・教師の授業改善への意識は確実に向上している。次年度もICT活用を含め、個別最適な学び、協働的な学びに焦点を当てながら学力向上に繋げていきたい。 ・ほとんどの児童生徒が自他の生命を尊重する心や思いやりの心をもっている。今後はコミュニティスクールや地域の人材を積極的に活用しながら地域を挙げて児童生徒を育てていきたい。 ・朝食を毎日きちんと食べてこないなど生活習慣の乱れから、学力や健康に影響を及ぼすことも考えられる。PTAや家庭と連携しながら改善していきたい。 ・「学びやすい、働きやすい環境づくり」に向けて、更なる時間外勤務の削減、部活動指導員の充実等、改善できるところから業務改善を進めていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成 ～地域と共に伸びゆく中央校をつくろう～
----------	---

3 本年度の重点目標	・教職員の協働力を発揮した義務教育学校の推進 ・確かな学力の定着と不登校児童生徒の縮減 ・「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けた教育の充実 ・コミュニティスクールの推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・「主体的に学びに向かう児童生徒の育成」を目的とした、9か年の連続性と系統性を意識した授業の実践	○「『主体的に学びに向かう児童生徒の育成』を目的として授業改善に取り組み、児童生徒の主体的に学ぶ態度が向上した」と答える教員85%以上	・教科部会ごとに、9か年の学びの連続性と系統性を意識した授業づくり及び実践を進める。 ・「主体的に学びに向かう児童生徒の育成」を目的に、日々の授業実践に取り組む。		・		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や教育相談に関するアンケートにおいて肯定的に回答する児童生徒90%以上	・様々な考えや生き方にふれられるように道徳の授業を担当だけでなく学年持ち回りで実施。 ・児童生徒が強みを見つけやすいような教師の日常的な言葉かけをする。		・		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ見逃しゼロを目指す。 ○いじめ防止取組、事案対処について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・中央っ子アンケートや生活アンケートを毎月行い、早期に対応したり、各学級で「いじめ見逃しゼロ」を伝えたりする。 ・県教委の「いじめ対応動画」を活用する。		・		・		・	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・日常的な声掛けでよさを認める。 ・年に2回教育相談を実施し、児童生徒の気持ちや困り感に寄り添った支援や指導を行う。 ・総合的な学習の時間でのキャリア教育を充実させ、将来について明るい見通しをもてるような授業を学年で取り組む。		・		・		・	
	○ふるさとを大切にするための教育活動	○ふるさと「多久」のよさに気付いたと感じた児童生徒90%	・生活科、社会科、総合的な学習の時間の「多久学」等で多久市のよさを学ぶ学習に取り組む。		・		・		・	
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○「早寝・早起き・朝ごはん」が身につけている児童生徒85%以上 ○あいさつ、返事、履物そろえがいつもできる児童生徒90%以上	・PTAと連携しながら家庭への啓発をする。 ・食育だよりの発行。 ・児童・生徒会活動を通して啓発し、意識を高めるように声掛けをする。		・		・		・	
	○健やかな体の育成	○体力向上に意欲的に取り組む児童生徒90%以上	・1年～6年でのスポーツチャレンジへの参加促進。 ・7年～9年での外部人材(部活動指導員等)を活用した運動部活動の推進。		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月45時間、年360時間の時間外在校等時間の上限を遵守する職員が80%以上。	・会議の効率化 ・定時退勤日の設定と推進 ・計画年休取得の推進 ・部活動の地域以降推進 ・職員の相談体制の整備		・		・		・	
	○学びやすい、働きやすい環境づくり	○業務改善ができたと感じる教職員85%以上	・業務改善について、教職員(7部会)で話し合って整理し、スリム化を図る。		・		・		・	
●特別支援教育の充実	○特別支援学級在籍児童生徒の進路選択にかかる情報の共有と拡充 ○学校教育支援員の専門性向上	○特別支援学級児童生徒と保護者への進路指導スキルが向上した教員90%以上 ○専門性が向上した支援員90%以上	・特別支援教育Coによる面談や特別支援児童生徒の進路に関する研修会の実施。 ・支援員への研修会の実施。		・		・		・	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○不登校対策の推進	○不登校児童生徒の情報共有と長期休業前後の対応の充実	○不登校対策、事案対処について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・児童生徒支援会議での情報交換 ・長期休業前後の取組 ・不登校傾向にある児童生徒への細やかな対応 ・専門職と連携した月1回の不登校対策委員会		・		・		・	
○家庭・地域との連携	○義務教育学校・コミュニティスクールとして児童生徒の人間的自立を実現 ○自ら進んで挨拶ができる児童生徒の育成	○学校・家庭・地域が三位一体となって児童生徒を育てていると感じている教職員・保護者80%以上 ○自ら進んで挨拶できると答える児童生徒90%以上	・コミュニティスクール新聞(仮題)を定期的に発行し、学校・家庭・地域相互の理解促進や活動への啓発を行う。 ・地域の関係団体と連絡を密にし、連携を強化したり、人材バンクの整理を行う。 ・学校と家庭や地域が連携し、進んで挨拶ができる児童生徒の育成を図る。		・		・		・	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・
--------------------	---------------------------